

ことばをめぐる諸問題

言語学・日本語論への招待

Issues concerning language:
an invitation to linguistics and
Japanese study

松本克己…[著]



ことばをめぐる諸問題 言語学・日本語論への招待

Issues concerning language:
an invitation to linguistics and
Japanese study

松本克己…[著]



三省堂

[著 者]

松本 克己 (まつもと・かつみ)

1929 年長野県生まれ，東京大学文学部言語学科卒。

金沢大学，筑波大学，静岡県立大学教授を経て現在，金沢大学，静岡県立大学名誉教授，元日本言語学会会長。

専攻は，歴史・比較言語学，言語類型論。

主な著書：『古代日本語母音論：上代特殊仮名遣の再解釈』ひつじ書房 1995，『世界言語への視座：歴史言語学と言語類型論』三省堂 2006，『世界言語のなかの日本語：日本語系統論の新たな地平』三省堂 2007，『世界言語の人称代名詞とその系譜：人類言語史 5 万年の足跡』三省堂 2010，『歴史言語学の方法：ギリシア語史とその周辺』三省堂 2014。

ことばをめぐる諸問題 言語学・日本語論への招待

2016 年 2 月 10 日 第 1 刷発行

著 者 松本 克己

発行者 株式会社 三 省 堂

代表者 北口 克彦

印刷者 三省堂印刷株式会社

発行所 株式会社 三 省 堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町二丁目22番14号

電話 (03)3230-9411 (編集)

(03)3230-9412 (営業)

振替口座 00160-5-54300

<http://www.sanseido.co.jp/>

© K. MATSUMOTO 2016

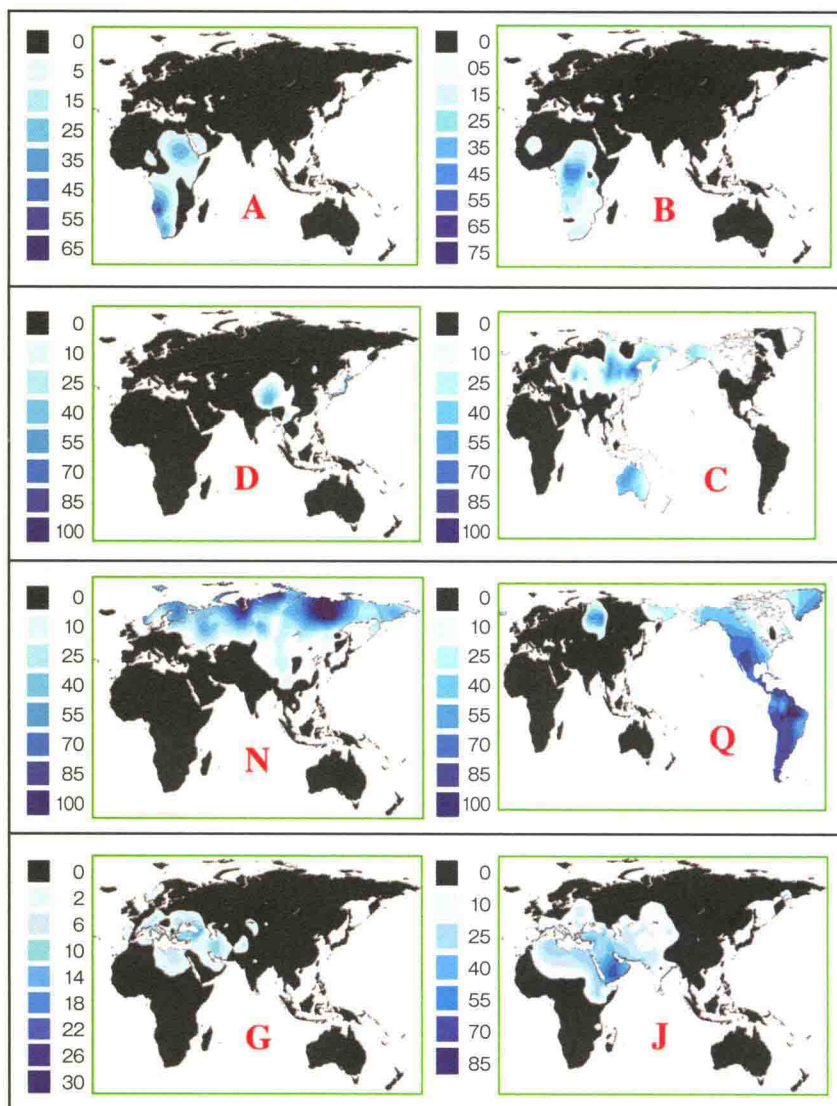
Printed in Japan

ISBN978-4-385-36276-2

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

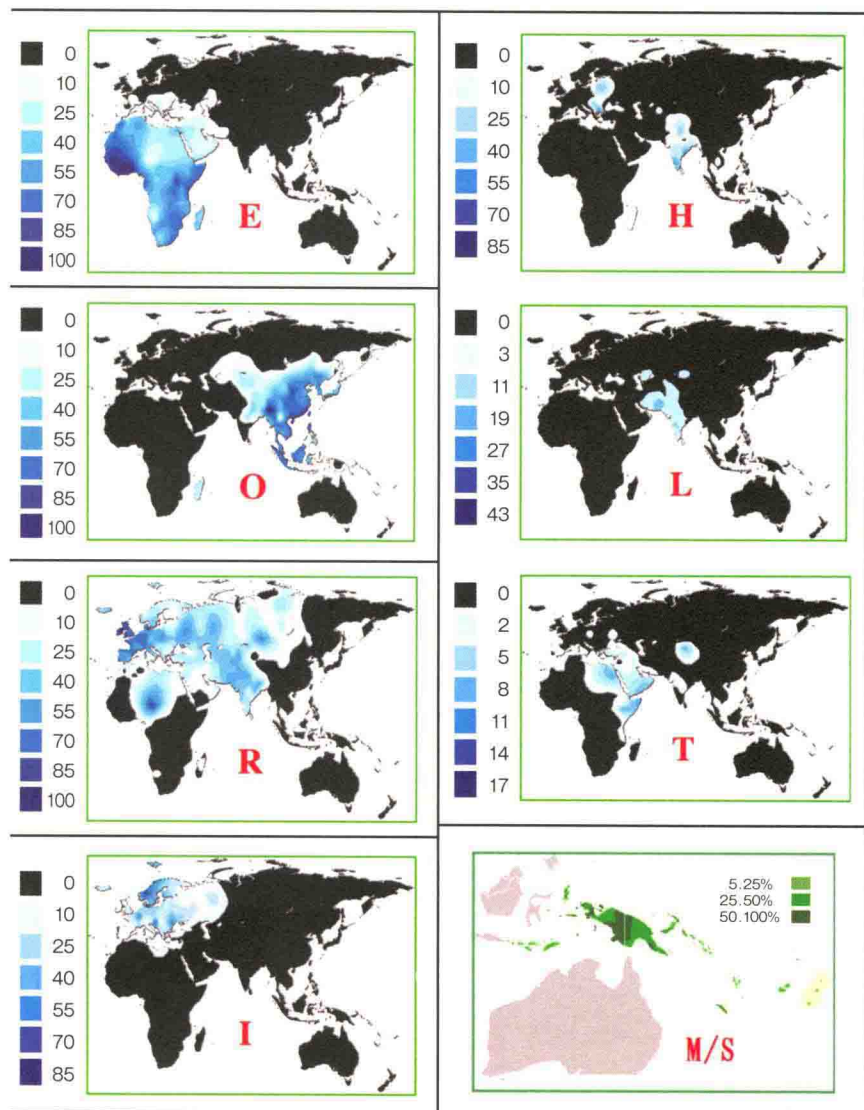
本書を無断で複製複製することは，著作権法上の例外を除き，禁じられています。本書をコピーされる場合は，事前に日本複製権センター（03-3401-2382）の許諾を受けてください。また，本書を請負業者等の第三者に依頼してスキャン等によってデジタル化することは，たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

〈ことばをめぐる諸問題・304pp.〉



15.7 Y染色体遺伝子系統の地理的分布-1

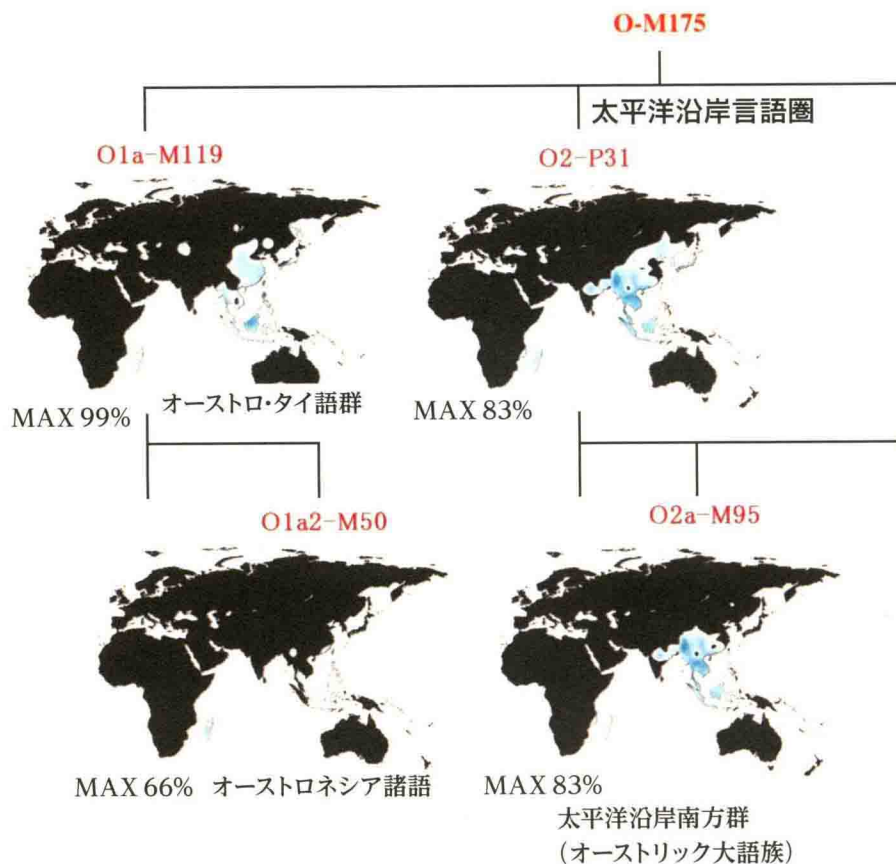
15.5 東アジア諸集団における Y 染色体遺伝子系統の分布



15.8 Y 染色体遺伝子系統の地理的分布-2

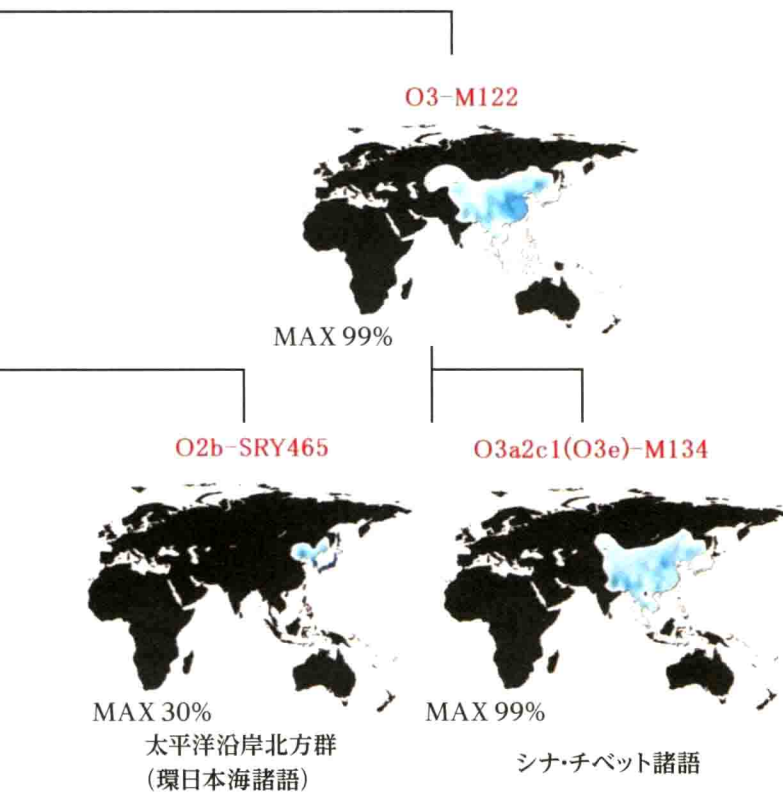
装画 とくだ あきら

装丁 三省堂デザイン室



15.9 Y染色体 O 系統と太平洋沿岸言語圏-1

15.5 東アジア諸集団における Y 染色体遺伝子系統の分布



15.10 Y 染色体 O 系統と太平洋沿岸言語圏-2

目次

第Ⅰ部	言語と民族	1
第1章	世界の言語——その現状と未来	3
1.1	はじめに	3
1.2	世界言語の地域的分布	4
1.3	世界言語の系統的分布	6
1.4	言語の系統とその時間的奥行き	11
1.5	言語と話者人口	15
1.6	言語と国家	18
1.7	危機に瀕した言語	31
1.8	世界言語権宣言	36
第2章	ヨーロッパの言語と民族	45
2.1	はじめに	45
2.2	インド・ヨーロッパ（印欧）語族	46
2.3	近代ヨーロッパの印欧諸語	48
2.3.1	ロマンス語	48
2.3.2	ゲルマン語	51
2.3.3	スラヴ諸語	53
2.3.4	その他の印欧諸語	55
2.3.5	非印欧諸語	57
2.4	ヨーロッパにおける近代諸国語の成立	59
2.4.1	話しことばと書きことば	59

2.4.2	近代諸文語の発達	63
2.4.3	東ヨーロッパの場合	67
2.4.4	ヨーロッパの言語ナショナリズム	68
2.4.5	中・東欧とバルカン諸国	72
2.5	ヨーロッパ諸言語の共通特徴：多様性の中の統一性	75
2.5.1	国語の分立と国際化	75
2.5.2	ヨーロッパ諸言語の文法的特徴	77
2.5.3	古典文語の遺産	81
第 II 部	言語の類型と歴史	85
第 3 章	言語類型論と歴史言語学	87
3.1	古典的類型論とそこからの脱却	87
3.2	日本語音韻史との関わり	90
3.3	言語類型論と言語普遍性	92
第 4 章	日本語と印欧語	95
4.1	はじめに	95
4.2	ヨーロッパの印欧語とアジアの印欧語	96
4.3	標準・平均的ヨーロッパ語 (SAE)	98
4.4	むすび	100
第 5 章	語順の話	103
5.1	はじめに	103
5.2	語順の類型論	104
5.3	世界言語の中の日本語	106
第 6 章	語順のデータベース	111
6.1	はじめに	111
6.2	パソコンによるデータベースの構築	113
6.3	終わりに	119
第 7 章	言語史にとっての 60 年	121

7.1	言語史における年代の問題	121
7.2	言語変化についての 60 年	127
7.3	ことばのゆれ：進行途上の言語変化	128
第 8 章	歴史言語学入門	133
8.1	ことばの変化相	133
8.2	音変化とその規則性	135
8.3	比較方法	137
8.4	言語の収束的発達	138
8.5	内的再建	139
8.6	補足質問	140
8.7	歴史言語学の手近な参考書	142
第 III 部	言語の構造と認知	145
第 9 章	数の文法化とその認知的基盤	147
9.1	数標示の種々相	147
9.2	数に関する普遍性	152
第 10 章	言語研究と「意味」	155
10.1	はじめに	155
10.2	構造主義と意味研究	156
10.3	統語論と意味論	162
第 11 章	言語現象における中心と周辺	167
11.1	言語の構造と不均衡性	167
11.2	共時態と通時態	170
11.3	言語の多様性と普遍性	172
11.4	言語と認知	174
第 12 章	能格性に関する若干の普遍特性	177
12.1	能格性の定義	178
12.2	能格性の顕現	179

12.3	能格性と対格性の共存	181
12.3.1	名詞の格標示と動詞の一致（人称標示）	181
12.3.2	能格性と動詞のテンス・アスペクト	182
12.3.3	格標示と名詞の意味階層	183
12.3.4	格標示と動詞の意味	184
12.4	形態論と統語論の関わり	185
12.4.1	能格性と統語法	186
12.4.2	能格性と“anti-passive”	188
12.4.3	能格性と談話構造	189
12.4.4	能格性と語構成	190
12.4.5	能格性／対格性の発生基盤	191
12.5	能格性と語順のタイプ	192
12.5.1	能格型語順とは？	193
12.5.2	能格性と主語・目的語の語順	194
12.5.3	能格性と SVO 型語順	196

第Ⅳ部 日本語・日本人のルーツを探る 201

第13章	イネ・コメ語源考	203
13.1	インドのイネ・コメ	203
13.2	東アジアのイネ・コメ：「ジャポニカ」種	204
13.3	東南アジアのイネ・コメ	205
13.3.1	オーストロネシア諸語	205
13.3.2	タイ・カダイ諸語	206
13.3.3	オーストロアジア諸語	206
13.4	漢語のイネ・コメ	207
13.5	日本語のイネ・コメ	210
13.6	朝鮮語のイネ・コメ	212

第14章	イネ・コメの比較言語学	215
14.1	はじめに	216
14.2	今から5千年前頃の東アジアの推定された言語分布	217

14.3	オーストロネシア諸語のイネ・コメ語彙とその分布	220
14.4	オーストロアジア諸語のイネ・コメ語彙	224
14.5	タイ・カダイ諸語のイネ・コメ語彙	227
14.6	ミャオ・ヤオ諸語のイネ・コメ語彙	229
14.7	チベット・ビルマ諸語のイネ・コメ語彙	232
14.8	漢語圏のイネ・コメ語彙とその起源	236
14.9	漢語、朝鮮語、日本語の稲作関係語彙	239
14.9.1	日本語の稲作関係語彙	241
14.9.2	朝鮮語のイネ・コメ語彙	242
14.10	むすび	243
第 15 章	私の日本語系統論	247
15.1	はじめに	247
15.2	類型地理論から探る言語の遠い親族関係	250
15.3	人称代名詞から導かれた世界言語の系統分類	259
15.4	言語の系統とその遺伝子的背景	266
15.5	東アジア諸集団における Y 染色体遺伝子系統の分布	271
15.6	太平洋沿岸系集団の環日本海域への到来時期	281
収録論文初出		287
あとがき		289

表目次

1.1	世界言語の言語数と地域分布	5
1.2	世界言語の系統分布	8
1.3	世界諸言語と話者人口の比率	16
1.4	話者人口による上位約 100 言語 (1)	19
1.5	話者人口による上位約 100 言語 (2)	20
1.6	上位約 100 言語の地域分布 (植民言語を除く)	21
1.7	上位約 100 言語の語族分布	21
1.8	世界の国別言語資料 その 1:アジア (46 カ国)	23
1.9	世界の国別言語資料 その 2:ヨーロッパ (43 カ国)	24
1.10	世界の国別言語資料 その 3:アフリカ (53 カ国)	27
1.11	世界の国別言語資料 その 4:アメリカ (35 カ国) オセアニア (14 カ国)	28
1.12	国の公用語と認められた土着語の数	29
1.13	多国籍公用語上位 10 言語 (カッコ内は唯一の公用語)	31
2.1	ヨーロッパの諸言語	60
9.1	トク・ピシン語の人称代名詞	151
11.1	トルコ語の母音組織	167
12.1	名詞の格標示と動詞の一致	181
12.2	能格性とテンス・アスペクト	182
12.3	能格性と統語法	186

14.1	オーストロネシア諸語のイネ・コメ関連語彙1：台湾・フィリピン	221
14.2	オーストロネシア諸語のイネ・コメ関連語彙2：インドネシア	222
14.3	オーストロアジア諸語のイネ・コメ関連語彙1	225
14.4	オーストロアジア諸語のイネ・コメ関連語彙2	226
14.5	タイ・カダイ諸語のイネ・コメ関連語彙	228
14.6	ミャオ・ヤオ諸語のイネ・コメ関連語彙	230
14.7	ミャオ・ヤオ諸語の語頭 /*n-/ の対応例	231
14.8	タイ諸語のモチ[ゴメ]	231
14.9	オーストロアジア諸語のモチ[ゴメ]	231
14.10	チベット・ビルマ諸語のイネ・コメ関連語彙1	233
14.11	チベット・ビルマ諸語のイネ・コメ関連語彙2	234
14.12	漢語圏における「イネ」「コメ」「アワ」の方言的変異	237
14.13	漢語、朝鮮語、日本語の主な稲作関係語彙	239
14.14	ドラヴィダ諸語	245
14.15	インド・アーリア諸語	245
14.16	インド圏のイネの主要品種名	245
15.1	類型の特徴の地域・語族的分布：アフリカ・ユーラシア・オセアニア	253
15.2	言語類型地理論から導かれたユーラシア諸言語の系統分類	257
15.3	人称代名詞から見た「環太平洋言語圏」の輪郭	260
15.4	ユーラシア太平洋沿岸諸語の人称代名詞	261
15.5	ユーロ・アルタイ諸語の人称代名詞	262
15.6	人称代名詞による世界諸言語の系統分類（アフリカの古い土着言語を除く）	264
15.7	東北アジア・シベリア諸集団のY染色体遺伝子系統	271
15.8	漢語系諸集団のY染色体遺伝子系統	272
15.9	チベット・ビルマ系集団のY染色体遺伝子系統	273
15.10	環日本海域（日本列島、朝鮮半島、満州）のY染色体遺伝子系統	274

15.11	太平洋沿岸南方群 1 (オーストロ・ミャオ系) の Y 染色体遺 伝子系統	276
15.12	太平洋沿岸南方群 2a (オーストロ・タイ系) の Y 染色体遺 伝子系統	277
15.13	太平洋沿岸南方群 2b (オーストロネシア系) の Y 染色体遺 伝子系統	277
15.14	長江流域古人骨の Y 染色体遺伝子系統	278

1.1	世界言語分布略図	12
14.1	今から 5 千年前頃のアジア(後の稲作圏)の言語分布推定図 .	217
14.2	先史中国大陸部の 4 語族(B1 , B2 , B3 , C)の現在の分布図	219
15.1	流音タイプの地理的分布	254
15.2	形容詞タイプの地理的分布	254
15.3	類別タイプの地理的分布	255
15.4	後期旧石器時代の太平洋沿岸部の地形	255
15.5	Y 染色体遺伝子の系統略図	267
15.6	Y 染色体 D, C, O 系統の分岐略図	268
15.7	Y 染色体遺伝子系統の地理的分布-1	前見返し(左)
15.8	Y 染色体遺伝子系統の地理的分布-2	前見返し(右)
15.9	Y 染色体 O 系統と太平洋沿岸言語圏-1	後見返し(左)
15.10	Y 染色体 O 系統と太平洋沿岸言語圏-2	後見返し(右)